

校外教育 研究紀要

研究主題

豊かな体験活動を通して自分をみがき

地域とともに生きるかのうっ子の育成



桶川市立加納小学校

〒363-0008
埼玉県桶川市大字坂田 883 番地
TEL 048-728-3533
FAX 048-728-6004



1 学校概要

本校は、創立147年を迎えた歴史と伝統のある、昔から地域に愛され大切にされてきた学校である。めざす学校像を「地域に誇れる加納小学校」とし、児童数350名、通常の学級12学級、特別支援学級2学級からなり、何世代にもわたって、本校と関わりをもつという家庭も比較的多く、地域の方々もたいへん協力的である。

桶川市の東に位置した広い学区には圏央道のインターチェンジがあって交通量がたいへん多いものの、学校周辺は田んぼや畑もまだ多く自然豊かな地域である。JAの協力をいただいて田植えや稲刈り体験をしたり、篠津川保全会の皆様の協力による自然観察会を行ったりするなど地域と連携した体験活動も盛んである。

また、学区内に中学校、高等学校、幼稚園・保育所があるという立地のよさを生かして異校種との連携事業が盛んであることも大きな特徴である。例年だと、桶川高校とは学習ボランティア活動や吹奏楽部によるふれあいコンサート、運動部による技能指導などの連携を行っている。また、坂田保育所との交流や加納中学校生によるあいさつ運動や中学校生徒による学校説明会の実施など、交流を深めている。しかし、今年度については、コロナ禍のため連携事業については、ほぼ中止となった。

学校教育目標 「自分をみがき ともに生きる かのうっ子」

2 研究の概要

(1) 研究テーマ及びテーマ設定の理由

テーマ：豊かな体験活動を通して自分をみがき、地域とともに生きるかのうっ子の育成
～学校ファームの取組を通して～

テーマ設定の理由

：豊かな自然環境に恵まれ、学校の立地や地域との交流を生かした特色ある教育活動を進めやすい環境が整えられている。そのことから、学校ファームの取組を通して、児童の学習意欲を高め、望ましい勤労観を育成するとともに地域との連携及び食育の推進を図ることを目指し、テーマを設定した。

(2) 研究計画

○本校では桶川市教育委員会が借り上げている約500平米の学校ファームがあり、地域の方が、年に数回トラクターで畑を耕したり、肥料を入れたりしてくださっている。

○スケジュール

4月：学校ファームに係る年間計画の確認、大豆の種まき

5月：きゅうり・ミニトマト等の苗植え

6月：さつまいもの植え付け、じゃがいもの収穫

7月：きゅうり等野菜の収穫・家庭での実践

8月：野菜の収穫

9月：だいこんの種まき

10月：さつまいもの収穫・家庭での実践

11月：だいこんの収穫・家庭での実践

3月：研究紀要の作成



3 研究の実践

(1) 取組の概要

学校ファームの活動を確実に実施していくため、生活科や総合的な学習の時間など、様々な教科等のねらいを達成することを目指す中で教育課程に位置づけて取組を行った。年度当初に栽培計画を全職員で確認して共通理解を図り、植え付けから収穫までの期間を考慮しながら、年間を通して農業体験ができるようにするとともに、地域の方との連携を行った。

(2) 各学年の計画及び取組

- 1年生・・・きゅうりを栽培、試食する（生活科）
- 2年生・・・さつまいもを栽培、蒸かしいもにして試食する（生活科）
ミニトマトを栽培、観察する（生活科）
- 3年生・・・だいずを栽培、豆腐づくりを行う（総合的な学習の時間）
- 4年生・・・だいこんを栽培、試食する（総合的な学習の時間）
- 5年生・・・米について調べ学習を行い、米を育てる（総合的な学習）
- 6年生・・・じゃがいもを栽培、実験する（理科）

なかよし学級・・・じゃがいも、きゅうり、なす、ピーマン、すいか、ねぎ、ごぼう

（生活単元学習）とうもろこし（ポップコーン用）、だいこん、ミニトマト、さつまいも

*今年度については、コロナ禍のため、学校で食することはせず、家庭に持ち帰り実践することとした。また、6月まで臨時休業だったため、5年生は田植えが行えず、米作りは中止とした。

(3) 活動の特色

○各学年の取組

野菜の栽培に当たっては、学年児童全員で種まき（苗植え）を行い、定期的に観察して記録をしたり、除草作業や水やりをしたりすることを通して、世話の大変さを経験したり、野菜の生長具合を実感したりすることができた。一連の農業体験活動を通して、収穫の喜び、自然環境や食物の大切さを学ぶことができた。また、地域の方が、世話の仕方を教えてくれる機会もあり、地域の中での交流が深まった。

今年度は学校で試食することができなかったので、各家庭で調理して試食することとした。だいこんを持ち帰った児童の家庭での実践から「今朝の味噌汁にだいこんが入っていて、いつものだいこんよりおいしく感じた。」「葉っぱもふりかけにして食べたから捨てるところがなかった。」「無農薬だから皮を食べても大丈夫だと知って、皮もきんぴらにして食べた。」など、食べ物への意識の高まりや農産物への愛着が感じられる感想が多くあった。

自校給食で収穫したじゃがいもを給食で提供し、全校児童で食することを通して、給食や食材への関心を高めるとともに、食を大切にし、食を楽しむ心を育むことにもつなげた。



地域の方に世話の仕方を教えていただいています。



肉じゃがの給食メニュー



さつまいもの苗植えです。隣の人と間隔をあけて、苗を横にして植えていきました。



雑草がたくさん生えてきます。さつまいもが大きくなるように、みんなで協力して草取りをします。



大きなさつまいもに育ちました。いもを傷つけないように周りからシャベルで丁寧に掘りました。

○なかよし学級の取組

なかよし学級における学校ファームの取組は、畑での栽培活動を通じた実感を伴う学びであり、子供たちにとって大きな意味をもつ。野菜の世話を経験し、収穫の感動や調理して食べる喜びを味わうことができた。また、継続して取り組むことで、世話の大変さを実感したり、野菜の大きくなる様子を観察して発見したりするなど、収穫し、調理し、食卓にあがるまでにたくさん時間や行程が必要なことなどを体感することができた。児童の興味関心を大切にしながら、栽培する野菜の種類を増やして経験を広げたり、協力して世話をしたりすることで社会性を習得させていくことにもつながっている。

学習面でも、算数で、じゃがいもの数を数えたり、重さを量ったりするとともに、収穫した感動を図工で作品に表したりするなど、多様な学びを通じた意欲に基づく学習の積み重ねによって望ましい学習態度や生活習慣の形成にも結びつけることができた。



だいこんの種まき
ものさしを使って
上手に間隔をあけ
てまきました。



スイカ



ピーマン



ポップコーン

子供たちは、ポップコーンが、とうもろこしからできることに驚き、塩味やキャラメル味をつけて美味しく食べました。ピーマンなどは家庭で料理していただき、いろいろな料理に使われることを知りました。



算数の学習で、収穫したじゃがいもをみんなで協力して数えたら、800個もありました。100個ずつ箱に詰めました。それから、重さを量って袋



図工で、さつまいものつるを使って作品づくりをしました。

4 成果と課題

学校ファームの取組を通して、農作物を自分たちの手で育て収穫する喜びを味わったり、収穫した野菜を調理して試食したりすることで（今年度は家庭に協力をお願いして）、農業の大切さや農作物への理解が深まっている。全学年が計画的に野菜を栽培し、試食したり、給食に活用したりすることは、児童が食物や食生活に興味をもつ機会にもなり、食育の視点でも大きな成果があったと考える。

課題としては、農業への知識や経験のない教職員も増え、現状のままの活動を維持していくことに今後難しさがでてくることが考えられる。農業に関わりのある地域性やコミュニティ・スクールという強みを生かしながら、地域と連携した学校ファームの推進をしていきたい。